

宝塚市における 生成AI活用 成果報告会

宝塚市教育委員会 教育研究課
指導主事 柏木 啓

宝塚市の概要と事業参画の狙い

- ▶ 宝塚市の概要について
- ▶ 宝塚市の端末環境について
- ▶ 事業参画の狙い

宝塚市の概要と事業参画の狙い

- ▶ 宝塚市の概要について
- ▶ 宝塚市の端末環境について
- ▶ 事業参画の狙い

宝塚市の概要

宝塚市は兵庫県南東部に位置し、市域は南北に細長く、住宅地が広がる南部市街地と、豊かな自然に囲まれた北部田園地域から成っています。

市内には有名な宝塚歌劇が上演される宝塚大劇場や手塚治虫記念館など、全国的に有名な観光スポットも多数あります。

人口
約23万人

児童生徒数
約17,000人

教職員数
約1,200人

学校数
小学校 23校
中学校 12校
特別支援学校 1校

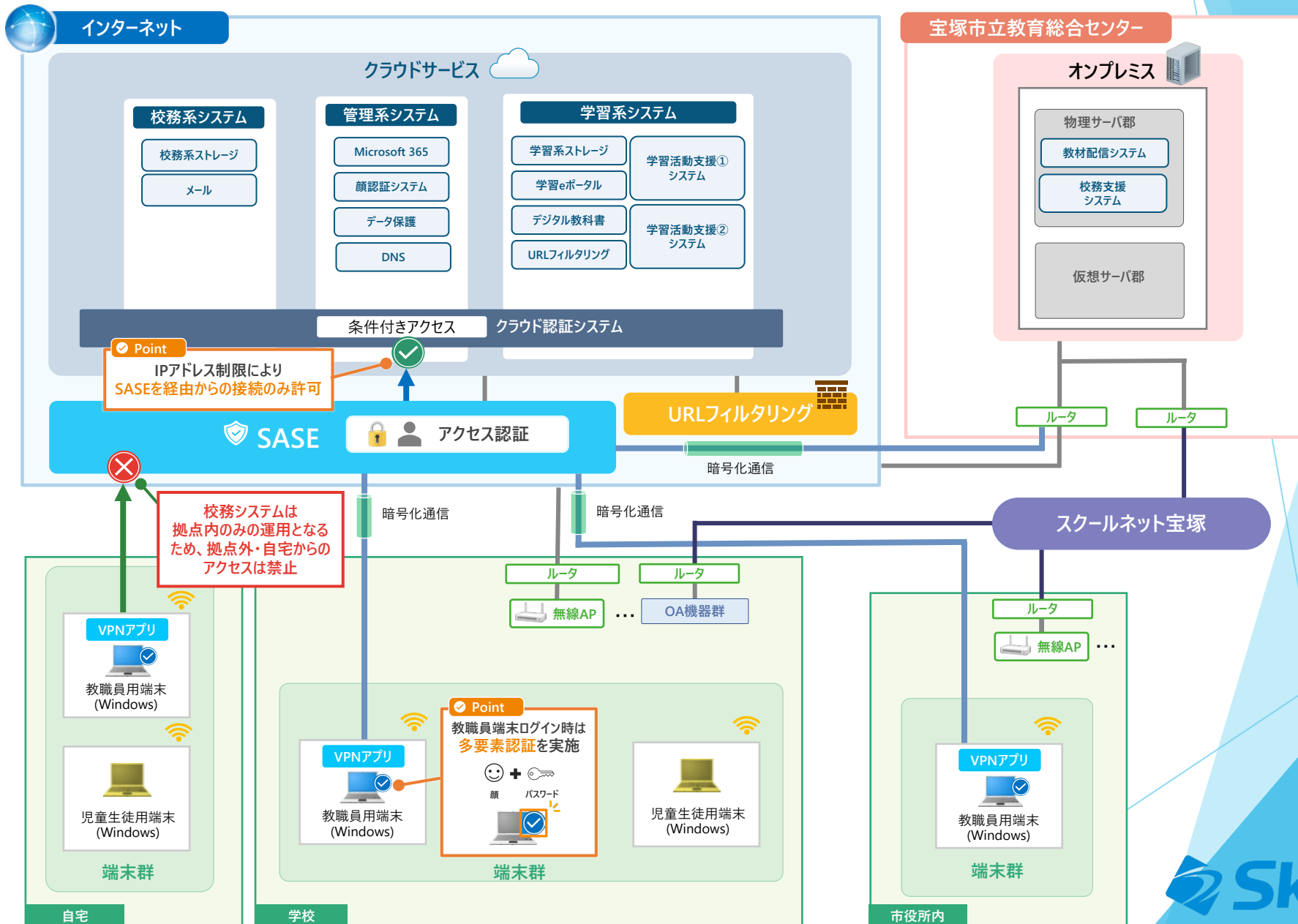
中学校PC室端末
230台
*小学校は廃止

教員用端末
約1,200台

宝塚市の概要と事業参画の狙い

- ▶宝塚市の概要について
- ▶宝塚市の端末環境について
- ▶事業参画の狙い

本市のゼロトラスト環境



セキュリティ・情報漏えい対策

・顔認証＋パスワードシステム



Point

教職員端末ログイン時は
多要素認証を実施



顔



パスワード

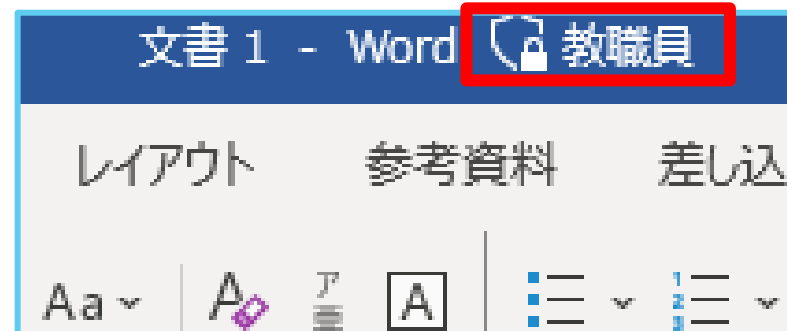


* 顔認証は目線や瞬きなどのアクション
必須としており、写真でのなりすましを防止

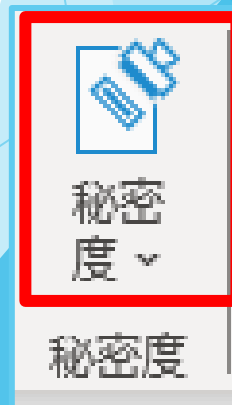
・秘密度ラベル

デフォルトで教職員ラベルが付与される

誤って、送信しても児童生徒は、
権限がないので開くことができない



授業で使う資料は、
意図的に秘密度を
変更することで
児童生徒に配布可能。



ロケーションフリーの実現

・出張への持ち出しが可能に

インターネット環境下であれば、どこからでも教育ネットワークにアクセス可能



いつでもどこでもデータや資料にアクセスができ、その場で意思決定が可能となる。

・自宅への持ち帰りが可能に

自宅のインターネット環境下で校務用端末の利用が可能



自宅で教材研究が可能となる

- ・ 自宅の個人用PCからは、校務クラウドサービスにログインできないように制御

宝塚市の概要と事業参画の狙い

- ▶宝塚市の概要について
- ▶宝塚市の端末環境について
- ▶事業参画の狙い

事業参画への狙い

教職員の負担とは一般的に...

- 長時間労働
 - 多岐にわたる業務内容
 - 責任の重大性
 - 教員のメンタルヘルス問題
 - 団塊世代の大量退職と若手世代の増加
 - 特別支援学級の増加
 - 教師の魅力の低下
 - 低い採用倍率
- 等

本市では ↓ 特に

若い教員の方が辞めていく課題の解消

フラッグシップ：若い教師が辞めていく課題の解消

学校内あるいは学校間での教員同士の情報共有や相談できる環境が乏しく、また経験が少なく解決が困難であることが、若い教員が辞めていく経緯にあると考える。

そこで、生成AIがベテラン教師役として、若手教師のアドバイザー・良き相談役となり、常に伴走してくれることをねらう。また、この若手教員の悩むポイントは、全教職員にとっても負荷の高い業務であり、生成AIを用いることで負担軽減が図れ、さらに今まで以上に教育の質を向上させることが可能となる。

- 所見文章作成
- 個別の支援計画の作成
- 授業案の検討
- 学級通信などの素案文作成
- 保護者対応の助言と今後の対応策の提示
等

取り組み内容、成果、課題について

- ▶事業開始当初の受け止め方
- ▶スケジュール
- ▶成果
- ▶課題

取り組み内容、成果、課題について

- ▶ 事業開始当初の受け止め方
- ▶ スケジュール
- ▶ 成果
- ▶ 課題

- 未知の技術に対する不安
- セキュリティに対する懸念
- 期待と関心
- 他人事観

取り組み内容、成果、課題について

- ▶事業開始当初の受け止め方
- ▶スケジュール
- ▶成果
- ▶課題

システムリリース(～8月)

- ・生成AIについての教育委員会としてのポリシー策定
- ・初任者研修会において、事業者による事業AIを活用した研修会の実施
- ・市内情報教育担当者会において、事業者による事業AIを活用した事業説明会の実施
- ・Microsoft Teamsを用いて情報担当者へ生成AIを用いての事例紹介

リリース～機能強化(9～11月)

- ・市内小中学校への訪問型端末活用研修の実施
- ・事業AIを積極的に活用される先生方を参集して
課題の共有と事例検討会を実施
- ・情報教育担当者会での事業AIを用いた事業者
による好事例紹介およびワークショップ
- ・教育委員会内の指導主事に対しての事業AIの紹
介およびワークショップ

研修後(12月～)

- ・学年末に必要な作業に関する事例紹介
- ・教育委員会で活用できる事例紹介

取り組み内容、成果、課題について

- ▶事業開始当初の受け止め方
- ▶スケジュール
- ▶事例、成果
- ▶課題

事例1

【効率化、時間短縮】所見作成(学期末の成績処理)

成果

約 6 時間要していた所見作成作業が、素案にいたっては 10秒程度、修正を加えても当初の1/3程度の時間で可能となった。

利用した情報

校務情報および教員の気づきデータ

事例2

【負担軽減】学級経営(保護者対応)での相談

成果

学級経営に対する保護者からの指摘に対し、AIによる的確な助言によって自身の心の負担が軽減された。

利用した情報

校務情報および生徒指導記録

事例3

【品質向上】保護者に向けた学校アンケートの分析

成果

教員たちが主観的な意見に頼らず、客観的なデータ分析を通じて、保護者や地域、関係機関との協力関係を築くことが可能となった。

利用した情報

校務情報および学校アンケート結果

取り組み内容、成果、課題について

- ▶事業開始当初の受け止め方
- ▶スケジュール
- ▶事例、成果
- ▶課題

- 利用率について
学校間、教員間ともに大きな利用格差が存在する
- データの不足
的確な回答を得るには、データの収集が必要

今後取り組まれる委員会様へ

生成AIの校務活用は、教職員の業務効率化や指導力向上、教育サービスの改善に寄与する一方で、利用経験の差や用途の広さから学校間や教員間で取り組みの温度差が生じます。利用を促進するには、利用目的や方法を丁寧に説明することが重要です。本事業では要録情報や学力調査データなどを活用しましたが、個別の児童生徒に対する精度の高い回答を得るには、日々の教職員の気づきや活動ログが必要です。教職員の負担を軽減しつつ、個人情報収集と整備が鍵となります。

ご清聴ありがとうございました